



さらなる飛躍を目指して

駿台甲府学園 理事長 田口 浩一

平成30年度の始動にあたり、新入生・保護者の皆様を歓迎いたしますとともに、日頃より本学園の教育活動にご協力を賜っております在校生の保護者の皆様に、改めてお礼申し上げます。

中学校、高校普通科ともに過去最高の人数の生徒さんに入學していただいたのは、在校生、卒業生を高く評価してくださったからだろうと思います。この多くの皆様からの期待に応えなければならぬと身が引き締まる思いです。

この春の大学受験では、東京大学に5名合格、国立大学の医学部医学科に10名の合格者を輩出するなど、多数の生徒が第一志望を叶えて、新たなステージへと旅立ちました。

また、3月には、高校の男子ハンドボール部が全国選抜大会に臨み、全国の強豪校に見事に競り勝ち、決勝戦に駒を進めました。決勝では富山の氷見(ひみ)高校に敗れましたが、全国での準優勝は過去最高の成績です。

これらは、駿台甲府の建学の精神「チャレンジング・スピリット」が発揮されたことによる成果でしょう。生徒の日々の努力と、友人との協力、そして

2018年 1学期
 新版 第91号
 編集
 駿台甲府高等学校
 駿台甲府中学校
 駿台甲府小学校

親御さんの支えによる賜物でありますが、本学園の教職員のお手伝いもあつての成果であると自負しております。しかし、これらの結果に満足することなく、さらなる飛躍を目指します。大学入試の多様化、世の変化に対応した改革を、本学園はスピード感を持って進めています。

普通科ではコース・フィールド制がスタートし、小学校では国語、算数や歴史など学力の基礎作りを力点を置くとともに、自ら考える力を涵養する授業を行っております。学園全体で、ICTの導入、英語教育の充実を中心にグローバル化の推進、児童・生徒の主体的な学習をサポートしています。

そして、塩部では中学校体育館の骨組みが姿を現し、教室棟の基礎工事も順調に進んでおります。また、中高の共通となる塩部図書室を整備し、今年度中の小学校校舎のリニューアルを計画しています。こうしたハード面に加え、様々なシステムや組織の再構築にも着手しました。新しくなる大学入試に対応するために全面的に駿台予備学校の協力を得ながらカリキュラムや教育内容も、常に見直しています。

充実した教育環境を実現していくためにも、保護者の皆様には、ご理解と格段のご支援をお願い申し上げます。



フロンティアホール



ICT ルーム



中学校新校舎
2019年3月竣工予定



体育館



大ホール

特集 入学



新たな挑戦者たち

高校普通科 1学年主任 中村幸央

春風や闘志いだきて丘に立つ
高浜虚子

この俳句はどのような場面が描かれているのでしょうか。丘に立つのはきっと一人。あなたです。「闘志」というのはとても強い言葉ですが、前向きな意欲を表すにはぴったりの言葉です。きつと、闘志を抱いて丘に立ち上がったあなたを春風がやさしく祝福し、励まそうとして吹きかけています。

今年、入学した普通科39期生はそれぞれが溢れる希望と少しの不安を胸に駿高の門を潜りました。

最初の学年団としてのあいさつでは平昌オリンピックでのパシュートを例に挙げて協力すること、団結することの大切さを話しました。ここでは、逆に個人について書きたいと思います。駿高の校訓はチャレンジングスピリットです。学業、部活動、さまざまな諸活動で挑戦する心、やってみようという心を大事にしてそれを前面に出して下さい。人に合わせたり、人の言うとおりにする必要はありません。「私はこれをこうやってやる。やってみせる」です。失敗を恐れたり、失敗して恥ずかしくしたりする必要はありません。駿高の先生方は挑戦しようとする生徒が大好きなのです。闘志を抱け！

自信を持って

美術デザイン科 1年担任 西田成美

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。皆さんとの日々を今か今かと心待ちにしております。

美術デザイン科に限らずですが、皆それぞれに個性があり、更に感性や表現力を必ず持ち合わせています。それを勉強で発揮する人もいれば、スポーツで発揮する人もいます。美術デザイン科に入学した皆さんは芸術方面で発揮していくわけですが、うまく発揮できるか不安な人もいます。表現や感性に不正解はありません。美術デザイン科では発揮する場面をたくさん用意しているので、怖がらずに自分に自信を持って思いっきりチャレンジしてほしいと思います。



また、今年の新生生の為に先輩方が黒板アートを描いてくれましたね。圧倒された新生生もいるかもしれませんが、次回は皆さんが黒板に絵を描く番です。どんな作品が出来るのか、今から楽しみにしています。

青空と笑顔で溢れた入学式

中学校 1学年主任 嶋津由希

去る4月5日(木)、駿台甲府中学校26期生を迎える入学式が行われました。澄み渡った青空がとても爽やかな日でした。

今年度は153名の新生を迎えることになりました。入学式前に会場の裏で整列している生徒一人一人の顔を見ました。新しい生活の始まりに多少の緊張感を漂わせながらも、明るく穏やかな笑みが溢れていました。その表情を眺めながら、それぞれの生徒たちにとって、これから始まる駿台甲府中学・高校での生活が、人生の中でのかけがえのない6年間となることを願ってやみませんでした。

誰にでも夢や目標があると思います。人生をかけてチャレンジする夢、手を伸ばせば届きそうな目標、そのどちらも将来の自分にとって大きなエネルギーとなります。中学26期生153人全員が自分の夢を見つけ、それぞれの目標に向かって力強く前へ前へと進んでいく。そのような6年間を生徒たちが過ごすことを、心から期待しています。そして私たち教員は、153人の夢を精一杯応援していきたいと思えます。

夢の実現は自立心の関数。つまり夢を叶えるための近道は、自分のことに責任を持ち、自分のことを自分でできるようにすることです。

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。楽しく充実した6年間を、一緒に歩んでいきましょう。

ようこそ1年生!

小学校 1学年主任 河西さち

4月5日(木)お天気にも恵まれ、第17回駿台甲府小学校の入学式が盛大に行われました。少し緊張気味の1年生も6年生に手を引いてもらうと、笑顔がこぼれました。

担任より一人ひとり名前を呼ばれると、さすが駿小の1年生、大きな会場、たくさんのお客さまの前で大きく返事ができ、とても立派でした。お祝いの奏楽で「いちねんせいになったら」が聴こえると、歌いはじめるなど、可愛らしい一面も見られました。

「駿台甲府」の仲間入りをした小学校17期生72名が、これからの学校生活で多くを学び、個々の可能性をさらに広げ、輝かしい未来に向かって羽ばたけるよう、「みてきて・はっけんいっばい・いちねんせい」を合言葉にしました。

楽しい学校生活を送るためにも、児童と教師、教師と保護者、児童と保護者の「心のキャッチボール」「言葉のキャッチボール」のできる環境を整え、自立に向け、自分の考えや思いを言葉として表現できるようにサポートしていきます。

これから17期生の成長に期待しています。



全国大会 準優勝

ハンドボール部男子 顧問 八田政史

今年度のチームで私が男子ハンドボール部の顧問に就き3年目のチームとなりました。3年生となった生徒たちは、私が駿台甲府に入ったと同時に入学してくれた生徒達です。今回の全国準優勝という結果は保護者の皆様をはじめ、現地まで応援に駆けつけて下さった皆様や多くの方々の支えがなくては成し得ないものでした。この場をお借りして感謝申し上げます。有難うございました。

今年度のチームは、2月に行われた関東大会で9年ぶりの優勝を飾り、第1シードとして全国大会に挑みました。初戦、3回戦と順調に勝ち進み、初の全国大会ベスト4を懸けての準々決勝、不來方高校（岩手県）戦、前半自分たちが理想としているDFから速攻に転じるチームスタイルを存分に發揮することができ、14対19の5点リードで折り返します。しかし、後半、相手チームからの反撃を受け一時1点差に迫られるも、GKを中心に粘り強く守り抜き、29対27の2点差で勝利することが出来ました。

初の全国大会ベスト4に進出し、センターコートでの試合となった準決勝は大分雄城台高校（大分県）との試合となりました。

昨年のインターハイで敗れた相手という事で、気合の入った試合となりましたが、7対11で前半を折り返す苦しい戦いとなります。しかし、ハーフ



タイムで自分たちの戦い方をもう一度見つめ直し迎えた後半、DFで粘り強く守り抜くと、OFでは主将佐藤陽太が18得点と、エースとしてチームを救う大活躍をし、28対26と大接戦を制し、決勝戦の舞台へ駒を進めました。

3月29日、11時30分、神戸グリーンアリーナで行われた決勝戦、中学時代から圧倒的強さを誇っている氷見高校（富山県）との試合に挑みました。何度も練習試合を重ね、お互いの手の内を知り尽くしている中で、3年生7名を中心に果敢に相手に立ち向かっていききましたが、健闘むなしく28対45と力尽きてしまいました。

昨年8月に新チームとなり、駿台甲府高校ハンドボール部の新しい歴史を創ろう、と決心しスタートしたのですが、上級生を中心に、選手一人ひとりが厳しい練習に耐え、目標を見失わずに努力し続けることが出来たからこそ、このような結果に結びついたと思えます。ですが、まだ夢の途中です。夏に三重県で開催される全国高校総体（インターハイ）で必ずリベンジし、悲願の優勝を掴み取れるよう、努力を継続していきたいと思えます。今後とも応援のほどよろしくお願いたします。

オーストラリア語学研修

中学校 吉田脩人



3月12日（26日）に中学23期生70名がオーストラリアにて語学研修を行いました。ホストファミリーとの出会いや学校での様々な経験を積み、またオーストラリアの大自然に触れ、一回り大きくなって帰ってくる事ができました。



現地では、メルボルンとアデレードのふたつの都市に分かれ、平日は各学校にて英語の授業や数学、体育など授業に参加し、週末はホストファミリーと現地の習慣に触れながら、密度の濃い2週間を過ごしてきました。それぞれの貴重な経験は今後の成長に役立ってゆくものと確信しています。

小さいころからの囲碁・将棋

小学校 長澤宏治

駿小では開校当初から授業の中で、囲碁・将棋を行っています。どちらも勝ち負けを争うものですが、その過程で礼儀作法や思考力・集中力が身に付きます。

囲碁・将棋を日常的に学んでいる子どもたちは、様々な大会に挑戦してくれています。今回、第50回県段別囲碁大会三段の部に6年生の松下寛明君が出場し、見事に優勝を飾りました。努力を重ねての初優勝で、勝った時には嬉しすぎて何も思い浮かばない程だったそうです。

現在囲碁・将棋の世界で大活躍している井山裕太さんや藤井聡太さんは、5歳の時に囲碁や将棋に初めて触れたそうです。もちろん最初から本格的にやっていたわけではなく、5歳の時にゲームや家族に教えてもらったことがきっかけとなっています。実は松下君も駿小の授業で囲碁に興味をもち夢中になったそうです。このような年齢で、囲碁・将棋に触れることは、子どもたちの可能性を広げることにもつながるはずですが、身の周りの当たり前から刺激を受けて、大きな花を咲かせていきたいです。



「納得受験」のすすめ

高校 進路指導部主任 羽田昌樹

まずは今年3月に卒業しました3年生36期生の大学合格結果の一部分をご紹介します。東京大学5名(文科2名・理科3名)、東北大学2名、名古屋大学2名、東京工業大学1名、国立大医学部医学科8名、早慶大28名、いずれも現役合格者数としては県内トップクラスの結果であり、そこに駿台予備学校で学び、大学受験に再チャレンジをした本校卒業生の合格結果を加えると全国有名校に肩を並べるレベルの実績であったと言えるでしょう。駿高生の日々の努力が結実した成果と大変喜ばしく思います。ここですべての実績をご紹介しますことはできませんが、後日、36期生の受験の様子や合格実績を「進学参考資料」という冊子にまとめたものを全校生徒全員に配布いたしますので、そちらでご確認いただければと思います。

さて、本校の進路指導の特色ですが、その根本に「納得受験」という考え方があります。「第一志望はゆずれない」を合言葉に生徒一人一人が「入れる大学」ではなく「入りたい大学」を進学目標に定め、学校と一体となってその目標達成に向けて努力を重ねる。安易に志望や目標を下げず、可能性のある限り、最後の最後まで諦めず目標達成に必要な努力を続ける。そして、自分が「本当に受験したい大学」にチャレンジする。こうでなければ、受験を終えたとき、合格が出たとき、大学に入

学したときに「納得」などできません。駿高では、この受験までの一連の流れを「納得受験」と呼んでいます。我々教職員一同は、この「納得受験」を第一に考え「志望校判定」に囚われない進路指導を実践しています。つまり、「志望校判定」で合格可能性が高い大学を第一志望と決めていくのではなく、生徒が行きたいと考えている第一志望の志望校判定を合格可能ラインに上げていくための作戦を個々の生徒に具体的に提示し、必要な取り組みを生徒と共にやっていくことを大切にしているのです。この考え方は、大学受験のシステムが変わりゆく昨今の変革の中にあっても決して変わることなく受け継がれてきた駿高進路指導の理念であり、これからも変わることはないでしょう。

このような進路指導を実践する上で生徒に大切にして欲しいことがひとつあります。それは何事に対しても「受け身」であってはならないということです。授業ひとつ取ってみても、漫然と何となく授業を受けていないか、人の説明を聞くだけで、自分の頭を使わずにしっかり考えるという過程を怠っていないか、反復練習で着実に記憶に定着させるといふ重要な部分が抜けていないか、こういう点を確認してみてください。教わる」という受け身な姿勢ではなく「学ぶ」という姿勢であって欲しいのです。「納得受験」を成立させる上で、最も重要な要素は「第一志望はゆずれない」ので「できる限りのことに自ら全力で取り組む」という一人一人の「覚悟」であるということをご理解いただければと思います。

新校舎建設事業寄付金のお願い

学園総務部

皆様には、平素より駿台甲府学園の学校運営に関してご理解とご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

本学園では、昭和55年4月の高等学校開校以来、順次、中学校、小学校を併設し、駿台の教育理念である「愛情教育」に基づく教育活動に取り組んできました。これもひとえに保護者の皆様をはじめ、卒業生及び関係各位のご支援、ご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

平成31年に駿台甲府高等学校創立40周年を迎えるのを機に、現在、中学校を高等学校と同じ塩部キャンパスへ移転する計画を進めており、中高一貫教育のさらなる充実を図っています。教室棟(7階建)と体育館の建設計画を行っており、冷暖房の完備はもとより、ICT環境の整備等、全教室で教育効果を最大化すべくハード面での充実を期しております。この事業達成のため、本学園として自助努力をすることとはもとよりではございますが、総事業費の一部として保護者や卒業生の皆様、企業の皆様等広く各界に寄付金の募集をさせて頂きたいと存じます。

何卒、趣旨をご理解の上、温かいご支援を賜りますようご協力をお願い申し上げます。

末筆ではございますが、保護者の皆様、卒業生及び関係者の皆様の益々のご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。

○目的

駿台甲府中学校新校舎建設に係る諸費用、施設・設備充実のために充当いたします。

○募集口数

- ・個人 一口 一万円
- ・法人 一口 十万円

(複数口でご協力頂ければ幸いです)
○申込方法

募金趣意書・またはホームページに掲載しております。(銀行振込他・クレジットカード・コンビニ支払・ペイジーによる決済が可能です)

※税制上の優遇措置について

◇個人の場合 Ⅱ「税額控除制度」または「所得控除制度」のどちらかを、ご寄付者ご自身で選択して控除を受けることができます。

◇法人の場合 Ⅱ日本私立学校振興・共済事業団を経由する「受配者指定寄付金」として取扱い寄付金の全額を損金算入することができます。

【お問い合わせ先】

〒400-0026

山梨県甲府市塩部二一八一

学校法人駿台甲府学園

法人局総務部

TEL 055-251-1558 4